

こうざえもんつうしん 講左衛門通信

平成 29 年 12 月 10 日

第 9 8 号

発行 天台宗忍草山東円寺
〒401-0511
南都留郡忍野村忍草38
☎ 0555-84-4114

『今年最後の講左衛門通信でまっすん。今日は、どんな話を聞かせてくれるでまっすん。』

『今日は、友右衛門の話をしようと思っておるんじゃ。12月7日は友右衛門の命日だったんじゃよ。安政3年(1856)73歳の生涯をとじたんじゃ。安政といえば、安政5年、井伊直弼による安政の大獄が有名じゃ。日本が大きく変わろうとしていた時だったんじゃよ。そんなことを思いながら、友右衛門とその子孫について話をしようと思うんじゃよ。』

『友右衛門には仙三郎という男の子がいて、大我講の二世を継いだと聞くでまっすん。その後は、どうなったでまっすん。』

『そうなんじゃ。ところが仙三郎の長男の弥

次郎が早世したため、分家に嫁がせた仙三郎の長女米代の長男類太郎を本家に迎え、ゆくゆくは3世にしようと思っていたようじゃ。しかし、大我講を継ぐことなく宮城県仙台市で死去しておるんじゃよ。類太郎には、芳雄という長男と博という次男がいてな、長男の芳雄の子康雄が、第一回忍野八海祭りに参列してくれたんじゃ。康雄の父親は、大我講や忍野八海との関係について類太郎から聞いていなかったそうじゃ。市川大門町の協力によって5代目を探すことができ、康雄が東京都小平市にいたことが分かったんじゃよ。しかし、康雄も平成15年に他界してしまったんじゃ。』

『現在、大我講について資料探しや研究をしてくださっているのは、康雄の弟、博の次男の赴彦でまっすん。平成27年「忍野八海を中心とした富士信仰と巡礼路」という調査報告書が忍野村教育委員会から発刊されているでまっすん。貴重な資料とともに報告書を書いてくれているでまっすん。』

『講左衛門通信を続けておるのは、時代とともに忘れ去られてしまうものがあるということを危惧しておるからなんじゃよ。後世に残すという意識がなければ、記憶から消えることは無理からぬことじゃ。忍野村は、ファナックという日本でも有数の大企業があるお蔭に、現在は豊かな村じゃ。しかし、多くの村人は、友右衛門のお蔭で子孫が残っているとんでも過言ではないと思うんじゃよ。』

『富士山世界文化遺産の構成資産である忍野八海に住むおいらたちは、忍野八海の歴史を学び、後世に語り伝えていく義務があるでまっすん。これからも、しっかり学び続けるでまっすん。』

『クニマッスン、よろしく頼むぞ。さて、暮れも押し迫ってきたが、12月23日(土)には静岡県富士山世界遺産センターが開館するそうじゃ。富士山の参詣曼荼羅は見応えがあると思うぞ。是非、足を運んでほしいのう・・・さて、今年も講左衛門通信をお読みくださった皆様には心から感謝申し上げます。様々なご意見を頂戴し、その言葉を励みに続けておるんじゃが、来年も、楽しみながら読んでいただける内容になるよう努力するぞ。』

『おいらも、もっともっと研究するでまっすん。よろしくでまっすん。』

『いよいよ冬本番じゃ。体に気を付けて良い年を迎えてほしいのう・・・皆の幸福を祈っておるぞ・・・』

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん..



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳

職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)